

# 課題名：飼料用米の生産拡大と省力化

## ねらい

5年後の「行政による米の生産数量目標の配分」の廃止に向け、強化された飼料用米への支援策（経営所得安定対策）を有効に活用し、安定した稲作経営が図られるよう、飼料用米の生産と省力・低コスト技術を組み合わせた経営手法を普及します。

## 活動地域・対象

県内全域（稲作農家）

## 普及活動の目標

- 1 飼料用米作付面積拡大 150ha
- 2 鉄コーティング直播栽培面積拡大 25ha

## 目標に向けた活動概要

1. 飼料用米の生産拡大
  - ①多収性専用品種（県特認品種）「あきだわら」の特性把握
    - ・農林水産総合支援センター内ほ場で、栽培試験を実施。
    - ・各農業支援センターで、「あきだわら」展示ほ8カ所で設置。
  - ②飼料用米「あきだわら」の作付推進
    - ・「あきだわら」の栽培歴を作成。
    - ・「飼料用米等推進員」研修で、「あきだわら」の栽培方法等技術面を指導。
2. 省力化技術の検討
  - ① 鉄コーティング直播栽培展示を3カ所で実施。



「あきだわら」展示圃



鉄コーティング直播展示圃

## 普及活動の成果

### 1. 飼料用米の生産拡大

- ①「あきだわら」の栽培暦の作成  
試験、展示ほの結果に基づき栽培暦を作成し、種子購入時に、生産者に配布しました。



「あきだわら」栽培暦

- ②飼料用米の取組状況

26年度の飼料用米作付面積は、25年度の101haから193haに拡大。  
27年度は目標面積500haに設定し、生産拡大を推進しているところ。  
新たに「あきだわら」が約140ha作付られる見込み。

### 2. 省力化技術の検討

- ①鉄コーティング直播実証圃における調査結果

- ・播種後、落水管理することで、苗立ちの安定が図られました。
- ・育苗に係る作業時間を削減することができました。
- ・しかし、育苗にかかる経費が減少するものの、除草剤、スクミリンゴガイ防除の薬剤費が増加し、収量も減少したことから、経営的な効果は認められませんでした。

- ②鉄コーティング直播取組状況

26年度の面積は、25年度の23haから31haに拡大。

## 今後の発展方向

### 1. 飼料用米

- ①「あきだわら」の収量向上

さらなる収量向上のために、栽培密度、施肥量等を検討し、多収技術の普及を図ります。

### 2. 省力化技術

- ①鉄コーティング直播栽培技術の確立

収穫作業と水稻の育苗作業が競合する冬春野菜栽培農家を中心に、飼料用米の省力栽培技術として、普及を図ります。

## 関係者からの声

- ・米価が大幅に下落しており、助成が充実している飼料用米に取り組みたい。(農業者)

## 農林水産総合技術支援センター高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel: 088-674-1922